

# 飼料用稲-麦類二毛作のための省力化技術体系

利用対象：飼料用稲-麦類二毛作を実施する大規模経営体

**(背景)**

冬季水田の有効活用および専用収穫機の稼働率向上を目的に飼料用稲-麦類の二毛作が導入されていますが、飼料用麦類収穫後の耕起、代かき、飼料用稲移植および食用小麦収穫の作業競合が深刻化し、飼料用稲の移植時期が遅れ、飼料用稲の減収が問題となっています。

## 作業競合を大幅に回避可能な麦立毛間水稻直播栽培技術を体系化

**(特徴)**

○ 作業競合を回避できる省力的な生産技術







・本生産技術では、育苗、耕起、代掻き、移植作業を省略可能であるため、作業競合期間の作業時間を慣行移植体系と比較して大幅に削減できます。

○ 収量性 (飼料用麦類後慣行移植体系 ≧ 本体系 > 食用小麦後慣行移植体系)

・栽培安定化のポイントと晩生品種の導入により、飼料用麦類後慣行移植体系とほぼ同等の収量が得られます。

- ・強めの麦踏み作業 (稲苗立数確保のため)
- ・2月中旬～3月中旬までの麦立毛間への稲播種 (麦へダメージ軽減と稲苗立数確保のため)

**麦立毛間水稻直播栽培作業体系**

月・旬	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
飼料用麦類	事前耕		播種	麦踏み	追肥	追肥	収穫						
飼料用稲			播種			除草剤散布			①【選択性茎葉処理剤】 ②【湛水後一発処理剤】	収穫			
利用機械	小明渠 浅耕播種機 作業幅:2.15m 【条間20cm,9条】		滑面 ローラ 作業幅:2.0m 【重量0.5t】		不耕起V溝 直播機 作業幅:2.0m 【条間20cm,10条】		専用収穫機 作業幅:1.72~1.77m 【5条刈】		乗用管理機 作業幅:15m 【タンク容量500ℓ】		専用収穫機 作業幅:1.72~1.77m 【5条刈】		
作業状況													

ポイント!! : 不耕起 V 溝直播機での飼料用稲播種を想定し、飼料用麦類を条間 20cm, 9 条で播種

お問い合わせ先	農産研究課 伊賀農業研究室 中央農業改良普及センター	川原田直也 中山幸則 伊藤 均 小倉 卓	電話 0598-42-6359 電話 0595-37-0211 電話 0598-42-6705 電話 0598-42-6323
参考になる資料	・ダイレクト収穫体系による飼料用稲麦二毛作技術マニュアル<2013年度版> <a href="http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/direct2013.pdf">http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/direct2013.pdf</a> ・三重農研HP: <a href="http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm">http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm</a>		